

第11節 東西系統

1, 概略

この節では、京都市営地下鉄東西線(以下東西線と表記する)と京阪京津線(以下京津線と表記する)における直通運転について取り上げる。東西線の開業に際し、京津線の一部区間を廃止にした点、京津線の全列車が東西線に乗り入れている点などがこの直通運転の特徴として挙げられる。

2, 沿革

東西線の構想は1971(昭和46)年の都市交通審議会答申13号で初めて出された。東西線は他路線同士のつながりが薄かった京都市東西方向を結ぶ動脈として、また住宅地化が進んできた京都市伏見区醍醐方面における初めての鉄道として計画された。この時、東西線の一部区間が京津線と並行することが分かったため、京都市と京阪は1982(昭和57)年からこの区間の扱いについて協議を始め、京津線には自動車道路との併用区間があることから京津線が廃止することになった。

東西線建設の計画は1984(昭和59)年の京都市総合交通行政推進委員会の場で公表された。東西線と京津線が並行している三条～御陵間を京都市が建設することが認められなかったことから、この区間の建設は京阪と京都市の共同事業という形をとり、第三セクターとして京都高速鉄道株式会社を設立して建設を行うこととなった。

1988(昭和63)年に京都高速鉄道が三条京阪～御陵間の第3種鉄道事業者として、京都市交通局が二条～三条京阪間と御陵～醍醐間の第1種鉄道事業者と三条京阪～御陵間の第2種鉄道事業者としての免許を取得した。京阪に関しては東西線区間の事業者免許を持たず、京津線が片乗り入れをする形となった。東西線と京津線が並走する御陵～三条京阪¹間は両線が併存した場合に健全な運営を維持できないと判断されたため京阪側を廃止す

¹ 実際は山科～御陵間も並行しているが山科駅の地形や線形の都合から御陵駅を分岐点にせざるを得なかった。(『鉄道ジャーナル』通巻377巻第3号,鉄道ジャーナル社)

ることになった²。ただ、廃止にしてもこれまでの京津線の機能を残す必要があったために、京津線と東西線の直通運転が行われるようになった。開業当初の乗り入れ区間は御陵～京都市役所前であった。三条京阪は立地の都合上、折り返し設備を設けることが出来なかった為、1 駅先の京都市役所前まで乗り入れた³。

東西線は 1988 年の 11 月に着工し、1994(平成 6)年の完成を目指していたが、遺跡の発掘調査やバブル経済による工事費の高騰などから 3 年ほど遅れた 1997(平成 9)年 10 月 12 日に二条～醍醐間が開業し、それに合わせて前日の 10 月 11 日には京津線の三条～御陵間が廃止された。

その後、2004(平成 16)年には醍醐～六地蔵間が、2008(平成 20)年には二条～太秦天神川間が延伸開業し、京阪による直通運転区間もその際に太秦天神川まで延長している。

3. 基準駅と基準駅間のルート

この項での基準駅は、前述の選定方法により、以下の駅が選択されている。なおデータは 2014(平成 26)年度のものを使用している。

京津線:京阪山科駅(京都府京都市中京区)⁴

東西線:烏丸御池駅(京都府京都市山科区)⁵

扱う移動パターンは以下の通りとなる。直通運転開始以前のルートを併せて示す。

京阪山科・烏丸御池間

京津線・東西線(東西線直通)

(開通前) J R 東海道本線・烏丸線(徒歩・山科駅乗換・京都駅乗換)

² 京阪電気鉄道編集『京阪百年のあゆみ』京阪電気鉄道

³ 『鉄道ジャーナル』通号 453 号第 7 号, 鉄道ジャーナル社

⁴ 京都府「平成 26 年京都府統計書」

<http://www.pref.kyoto.jp/tokei/yearly/tokeisyo/tsname/tsg1001.htm>

⁵ 京都市「京都市交通事業白書 平成 26 年」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/cmsfiles/contents/0000073/73257/hakusyo26.pdf#page=78>

4. 運行概況⁶

各線における運行本数と行先方面を以下に記す。

i) 東西線（上り）

	京津線直通	線内完結
各駅停車	76	137

表 2-2-47 東西線（上り）の平日の運行概況（単位：本/日）

ii) 京津線（上り）

	東西線直通
各駅停車	76

表 2-2-48 京津線（上り）の平日の運行概況（単位：本/日）

京津線の列車はすべて東西線に直通しているのに対し、東西線の列車は半分以上が線内完結運用になっている。これは前述のように東西線の一部区間がかつての京津線の代替でもあるため、京津線沿線から京都市中心部への利便性をこれまで通り確保するためといえるだろう。また、全列車が各駅停車での運行となっているのも特徴の一つである。

5. 時間に関する指標とそれに関する考察

基準駅間の所要時間・乗り換え回数およびその変化は以下の通りである。

開業前：22 分⁷、1 回(乗車前徒歩連絡)

開業後：14 分、0 回

これまでのルートに比べ、乗換回数はもちろん、所要時間も大幅に短縮された。これまでのルートでは、山科において乗車前の徒歩連絡があるほか、京都駅での連絡で時間を要していたが、それらがすべてなくなり、純粹な乗車時間のみになったことで、時間の短縮効果が大きくなったと考えられる。

⁶ 「京都市営地下鉄 東西線 三条京阪駅」ハイパー地下鉄ダイヤ
<http://www2.city.kyoto.lg.jp/kotsu/tikadia/hyperdia/013301.htm>
「京阪山科駅（時刻表）」京阪電鉄株式会社

<http://www.keihan.co.jp/traffic/08time/time.cgi?timetable=50111>

⁷ 『KATT 関西圏私鉄・JR 時刻表 1997 年 4 月号』八峰出版株式会社

6. 運賃とそれに関する考察

運賃とその変化

開業前：400円 開業後：430円

開業後のルートのほうが30円ほど高くなった。しかし、今回の基準駅の場合、東西線にも山科駅が存在し、東西線の山科駅から烏丸御池駅まで利用した場合、260円となり格段に安くなる。おそらく、山科駅周辺の利用者は地下鉄を利用し、京津線からの直通運転を利用する人は山科より浜大津寄りの京津線沿線地域からであろう。その際は山科駅でのJRへの乗換で30円の増加分が帳消しになるため、この差は利用者の直通運転利用への移行の障壁にはならないと考えられる。

7. 利用客数に関する指標とそれに関する考察

i) 利用客数とその変化⁸

	1996 (平成 8) 年度	1998 (平成 10) 年度	2005 (平成 17) 年度	2009 (平成 21)年 度	2013 (平成 25)年 度
大津線 ⁹	29,479	17,559	14,997	15,920	16,517
東西線	開業前	—	46,596	—	55,501
京都市 (参考) ¹⁰	76,105	110,405	114,907	137,413	147,283

表 2-2-49 各年の各路線の輸送人員の推移(単位：千人/年)

ii) バイパス効果について

今回の事例では東西線と並行している路線が現在存在していないため、バイパス効果について検証することが出来ないと考えられる。

⁸ 株式会社電気車研究会(2012)「平成 21 年度 鉄道統計年報」
政府資料等普及調査会(2007)「平成 17 年度 鉄道統計年報」
政府資料等普及調査会(2000)「平成 10 年度 鉄道統計年報」
政府資料等普及調査会(1998)「平成 8 年度 鉄道統計年報」

⁹ 大津線は石山坂本線と京津線の総称である。

¹⁰ 鉄道統計年報に東西線だけのデータが示されていない年度があるため、烏丸線との合計である値を参考として示す。

ただ、東西線の開通後に東西線に近接する路線の利用者数が増加しているというデータもあり¹¹、東西線の開業による需要の誘発が生じた可能性を指摘できる。

東西線と京津線の直通運転は沿革でも見てきたように、京津線の廃止区間を補うために実施されてきた。そのため、直通運転開始後は京津線¹²の輸送人員が大きく落ち込み、その後京津線においては輸送人員が多少回復したものの、開通前の輸送人員には遠く及ばない。つまり、これまで京津線を使っていた人が東西線に遷移しただけであるといえる。

8. まとめ

以上のように、東西線と京津線の直通運転は京津線の代替運転という性格を持ちつつも、京都市中心部と京津線沿線の間における利便性向上の役割を果たしているといえる。

東西線は直通運転開始後も路線を少しずつ延伸し、今後も延伸の計画がある¹³。現状では直通運転はほぼ京津線の代替といった立場から脱し切れないと考えられるが¹⁴、今後直通運転区間とその本数を拡大していけば、京都市中心部と大津を結ぶ新たな動脈としての機能を果たすことになり、新たな需要を見込める可能性があるのではないかと。

¹¹ 京津線や烏丸線の1日あたりの利用者数が増加したことが示されている。

国土交通省『大都市交通センサス』平成14年

<http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha03/01/010522/06-1.pdf>

¹² 今回は鉄道統計年報のデータを用いているため、石山坂本線の変動を反映している可能性がある。

¹³ 『鉄道ジャーナル』通号453号第7号、鉄道ジャーナル社

¹⁴ 現在のダイヤでは京津線から直通する列車76本のうち途中の京都市役所前止まりの列車は48本であり、全直通列車の3分の2を占める。